

週刊 タバコの正体

タバコは身体を痛めつけるのを知っている人が、あえて吸い始めるわけがありません。タバコに手を出してしまうのは、タバコの正しい知識を持っていなかったり、その怖さを認識していないからです。特に君たちのような未成年者の多くは、そんな認識の甘さから、タバコに興味を持ってしまいがちです。

子供たちがタバコに興味を持ってしまうのは、そのまわりの大人たちに責任があります。“禁煙”と表示されていないければ、近くに子供がいよいよタバコに火をつけて、おいしそうに煙を吸い込む人が大勢いますからね。そんな姿を目にした子供たちは「タバコって、どんな味がするんやろ？」って興味を持つのも無理はありません。そのうえ、自動販売機やコンビニで目にするタバコのパッケージは、そんな子供たちには輝いて見えるようなデザインがほどこされているので、いつの間にかタバコに憧れるようになるのでしょう。

そして、何かのはずみで最初の一本を吸ってしまうと、またたく間にニコチン依存症になってしまいます。そうすると、時間が経過してタバコの怖さを知ったところで、もうやめられなくなっているわけです。

そんな悪循環を断ち切るため、遠く離れたオーストラリアでは、今月から「プレーン・パッケージング（飾りのない包装）法」という法律が施行され、下のような怖いデザインのパッケージでなければ販売できなくなったそうです。

子供には少々刺激が強すぎますが、そこには“吸わせない”思いやりが隠されています。

産業デザイン科 奥田 恭久

